

まちあるきの考古学

銀山温泉〈山形県銀山町〉 山峡に居並ぶ木造建築



山形空港から羽州街道(国道13号線)を北上して2時間、奥羽山脈の奥深くに佇む銀山温泉に到着しました。そこは、川の浸食により刻まれた山峡の地でした。大正末期から昭和初期に建築された大きな木造温泉旅館が、小さな銀山川を挟んで、互いに対峙するかのよう
に、ひしめきながら居並んでいました。

それはまるで 万の神々の宴のよう



木造建物はどれも3～4階建ての真壁造りです。
大きな開口にガラスサッシがはまり、黒い柱と白い漆喰壁、深い軒は出桁作りで、垂木の白い小口がリズム感よく並んでいます。

夜景は幻想的です。
正面の大きな開口から、部屋の灯りが漏れてくる光景は、古めかしく、妖しげにさえみえます。

まるで、
万の神々が祝宴を上げているような。

温泉街は銀山川の刻んだ溪谷の奥深く



銀山温泉は、江戸初期に栄えた「延沢銀山」に由来しています。銀鉱は江戸中期に枯れ、小さな湯治場だけが残ったようです。

昭和元年に源泉ボーリングで、高温多量の湯が湧出したことで、鄙びた湯治宿は、大きな木造建築に建て替わっていきました。



付近のまちあるき
山形 酒田 鶴岡